

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～																			
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針	自己評価	推進委員会							
														意見	評価						
【1】住民による自主的な地域活動の推進	(1)ふれあいいきいきサロンの推進	54	社協	〔社協〕 ①レクリエーションの実施、遊具の貸出、初期活動に対する財政的支援等の実施 ・職員がサロンを訪問し、レクリエーションの支援や情報提供を行う。 ・新規サロンの増設や、既存サロンの活性化につなげるためレクリエーション用遊具を補充し、貸し出す。 ・新規サロンへの財政的支援(2年間) ②サロンリーダー及びボランティアの支援・育成(いきいきサロンリーダー研修会等の開催) ・いきいきサロン研修会の開催 北部、中部、東部、黒島、宇久、計5カ所で実施する。 ③いきいきサロン活動の周知、事業説明等による開設支援 ・福推協会長連絡会、各地区総会等での事業説明、事例提供によるサロン開設の推進 ・地域包括支援センターや第2層生活支援コーディネーターとの連携によるサロン開設の推進 ④サロン活動の支援につながる関係機関、企業の情報収集、連絡調整 ・ボランティアグループ、福祉事業所、医療機関、企業等によるプログラム支援の情報提供、連絡調整を行う。 ⑤地域共生サロンの開設の推進 ・既存サロンや社会福祉法人等への事業説明、協力依頼、活動周知等に取組む。	いきいきサロン 設置力所数	目標値	220 力所	240 力所	260 力所	280 力所	300 力所	【具体的な取組みと実績】 〔社協〕 ①職員によるサロン新規開設、運営等の支援 ・新規開設:15カ所(活動廃止2カ所⇒1カ所減) ・職員訪問支援:352回 ・初期活動(2年間)への財政的支援:16カ所(125,000円) ②いきいきサロン研修会の開催 ・サロン代表者を対象に、東部、中部、北部3カ所でスマートフォン講座を開催した。(定員25名) ・内容:スマホの便利な使い方～スマートフォンで災害に備えよう、LINEの使い方について～ ・参加者:計61名 ③サロン活動の周知、事業説明等 ・新設サロンを中心に、年間計画の作成支援やプログラムの検討、回覧用のチラシの作成、広報誌への掲載等、地域包括支援センター、生活支援コーディネーターと連携して支援を行った。 ・「くらしに役立つ福祉情報ガイド」に掲載しているいきいきサロンの情報を更新し、市民や関係機関への周知を図った。 ④関係機関、企業との連絡調整 ・介護事業所、警察、消防、消費生活センター、ボランティアグループ、個人ボランティア、企業等の外部講師へ支援を依頼し、プログラムの充実を図った。 ⑤地域共生サロンの開設 ・高齢者を対象としたサロンに子どもや障がい者等、誰もが参加可能な形態による実施をはたらきかけ、開設を推進した。(新規開設:1カ所) ⑥その他 ・サロン対抗によるレクリエーション交流大会の開催を予定 →新型コロナウイルス感染症予防のため中止した。 【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔社協〕 ○サロン研修会については、コロナ禍のサロン活動や地域の福祉活動の活性化を図ることを目的として、スマートフォン講座を開催した。自宅での1人の時間が増える中、介護予防や、交流の手段の1つとして、紹介することができた。 ○百歳体操等の健康体操、介護予防活動に取り組む新規の自主活動グループが、感染ピーク時期より増えている。引き続き、地域包括支援センターや第2層コーディネーターと連携体制を強化し、各サロンの状況把握を行いながら、見守りや介護予防、孤立防止の活動が行えるように活動支援を継続するとともに、参加者が自発的かつ自由に活動できるためのプログラム内容等の提案を働きかけていく。 ○レクリエーション交流大会は、出場を目指すことによるモチベーションの向上及びサロン参加者同士のつながりの強化となっているため、今後は、感染状況を考慮して開催方法などを工夫し、開催していく。 ○サロンから講話依頼を受け、「新型コロナウイルス感染症に関する講話」や「地域の防災対策に関する講話」を実施した。 →今後も、講話内容等、参加者が関心のある事柄についてサロンプログラムに取り入れることで、内容の充実、サロン活動の活性化を図る。	3	新規サロンの設置に向けた地区への働きかけと共に、既存サロンの活動継続への支援も強化していただきたい。	3						
						実績値	247 力所	263 力所	265 力所	278 力所											
						達成度	120%	110%	102%	99%											
					いきいきサロン 研修会等開催 回数 (開催力所数)	目標値	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)										
						実績値	年1回 (5カ所)	感染 予防 のため 中止	感染 予防 のため 中止	年1回 (3カ所)											
						達成度	100%	0%	0%	100%											
					地域共生サロン 設置力所数	目標値	20カ所	25カ所	30カ所	35カ所	40カ所										
						実績値	20カ所	20カ所	20カ所	21カ所											
						達成度	100%	80%	67%	60%											
					目標・指標 事業達成度(達成度平均)												86%				

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～																				
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針		自己評価	推進委員会							
															意見	評価						
【1】住民による自主的な自主活動の推進	(2)食を通じた地域活動の支援	55	市社協	〔市・社協〕 ①食事サービスグループの活動実績に応じた助成金の交付 ②ボランティアを対象とした料理教室の実施 ・食事の提供が充実するよう、ボランティアを対象とした料理教室を行う。 ③子ども食堂など、食を通じた交流活動への支援 ・市民や企業への広報、協力企業との連絡調整などを行い食事の提供を通じた交流活動を推進する。	料理教室等研修会開催回数	目標値	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)	年1回 (5カ所)	【具体的な取組みと実績】 〔社協〕 ①食事サービスグループへの助成金(R4年度末54団体) R4年度 活動実績:6,716食 助成金:1,746,160円 (1食あたり、260円の助成金を交付) ②料理教室等の開催 ○食事サービスグループリーダー研修会(22名参加) 開催日:令和4年7月4日(月)10:00～11:30 場 所:山澄地区コミュニティセンター 第1・2講座室 内 容:①コロナ禍における感染症の予防について ②意見交換会・情報提供 講 師:佐世保市保健福祉部 保健福祉政策課 課長 濱崎 利樹 氏 生活衛生課 課長 平島 陽一 氏 ○食事サービスボランティアグループ研修会(17名参加) 開催日:令和5年2月24日(金)13:30～15:00 場 所:アルカス佐世保 大会議室A 内 容:①シニア世代への食生活アドバイス ②意見交換会・情報提供 講 師:長崎国際大学 健康管理学部 准教授 山口 留美 氏 ③令和5年1月「株式会社ミラクル乳業様」より総数400個を超える乳製品を提供していただき、子ども食堂ネットワークへつないだ。	3	食事サービスグループのニーズに応じた情報提供や研修会を実施していただきたい。 また、協力企業の開拓についても市民や企業への周知を強化していただきたい。	3							
						実績値	年1回 (5カ所)	感染予防のため中止	感染予防のため中止	年1回												
						達成度	100%	0%	0%	20%												
					協力企業新規開拓数	目標値	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所	1カ所					【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔社協〕 ○例年開催していた調理実習は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、食事サービスボランティアグループ研修会に変更し実施した。 今後、料理教室等研修会を選択制で5カ所で開催し、食事の提供に役立ててもらえるよう情報提供を行う。 ○引き続き、食を通じた交流活動への支援・市民や企業への広報、協力企業との連絡調整などを行い、食の提供を通じた交流活動の推進に努める。						
						実績値	1カ所	1カ所	0カ所	1カ所												
						達成度	100%	100%	0%	100%												
					目標・指標 事業達成度(達成度平均)												60%					

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～																							
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針	自己評価	推進委員会											
														意見	評価										
【1】住民による自主的な自主活動の推進	(3)コミュニティビジネスに関する研究	55	市社協	〔市・社協〕 ①福祉分野における先行事例の研究 ②新たな活動の創出に向けた事業活動(コミュニティビジネス)についての検討	コミュニティビジネスの研究	—	検討	検討	検討	検討	検討	【具体的な取組みと実績】 〔市〕 ○令和4年度2地区の自治協議会がコミュニティビジネスに取り組んだ。 ・小佐々地区…まちづくりミーティングを開催。ワークショップの中で検討。 ・西地区…西地区未来会議の中で、子ども食堂勉強会を行い「西地区子ども食堂(体験版)」を実施。 〔社協〕 ○農副連携の取組みについて、福推協等を中心に農業放棄地を貸農園等として地域に開放し、地域交流の場としての活動の展開が可能か、小佐々地区自治協議会と意見交換を行った。 ○雇用型居場所の展開の可能性について、関係課と内部で意見交換、情報共有を行った。 【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔市〕 ①興味を持つ地区自治協議会への個別訪問によりコミュニティビジネスの理解を深める。 ②先行して取りくんだ地区からコミュニティビジネスのノウハウを広げてもらう。 〔社協〕 農福連携の在り方や雇用型居場所に関しては、引き続き協議が必要であるが、地域での活躍が期待される世代(定年後の社会参加が少ない男性等)を選出するなど、本市の特性や地域課題について、実践に移すためのモデル地区の選定や具体的な活動内容の検討を含め、住民の支え合い活動の強化や課題解決のための新たな仕組みを構築するために検討していく。	2	コミュニティビジネスに関する検討内容を整理し、具体策を示していただきたい。	2										
						実績値	検討	検討	検討	検討															
【2】ボランティア・市民活動の推進	(1)ボランティアセンター運営	56	社協	〔社協〕 ①ボランティアに関する相談対応 ・ボランティア・市民活動に関する相談受付、活動の支援など ②ボランティア活動希望者とニーズのマッチング ・ボランティア活動希望者と支援を必要とする人などのコーディネート ③ホームページや広報紙等によるボランティア情報の発信 ・社協ホームページに活動情報、研修会等の情報を掲載 ④ボランティア広報紙の発行 ・ボランティア情報誌「くれよん」の発行(2カ月に1回)	ボランティア活動依頼件数	目標値	130件	140件	150件	160件	170件	【具体的な取組みと実績】 〔社協〕 <table><tr><td>活動希望</td><td>活動依頼</td><td>問い合わせ</td><td>合計</td><td>活動提供</td></tr><tr><td>341件</td><td>52件</td><td>1,004件</td><td>1,397件</td><td>48件</td></tr></table> ○ボランティア情報紙「くれよん」の定期発行 ・A4サイズ 両面 4,100部/回×6回(偶数月)+追加発行1,000部 ※追加発行はNPO法人ふれあいサークルあんずが学校等へ配布するために発行した ○LINE公式アカウントの開設と定期発信 ・令和4年8月開設し、毎週金曜日にイベントの告知(登録団体が開催する分も含む)や直近の活動依頼の状況等を一斉メッセージを送信 ・令和5年3月末現在での登録者数123名 【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔社協〕 ①コロナ禍の影響が続く中、センター内での活動の再開や講座が実施できたことにより、来所者が増え、活動希望相談は大幅に増加しているものの、施設や個人からの活動依頼件数は変わらず低調となったため、活動先の確保が必要。今後、民生委員や老人クラブ等への訪問広報、登録団体との連携強化を行う。 ②新規登録は28名だったが、登録抹消が30名おり、登録者数は前年度より2名減となった。抹消の理由は市外への転出が14名と最も多く、その内10名は40代以下であった。今後、若い世代の登録を促すため、講座の開催日を参加しやすいと思われる土日に設定する。 ③活動依頼52件に対し、48件マッチングができた。コロナ禍以外で不調に終わったものは、調整期間が1週間未満のものと依頼者の希望する活動者が希望日に活動できなかったものの2件。ボランティアや登録団体との連絡が迅速にとれるよう、LINEの活用を勧める。 ④ホームページや情報紙「くれよん」に加え、LINEの公式アカウントを取得し、広報媒体を増やした。	活動希望	活動依頼	問い合わせ	合計	活動提供	341件	52件	1,004件	1,397件	48件	3	活動依頼件数を増やすために市民や各種団体に事業の周知を行っていただきたい。 また、ボランティア新規登録者を増やすためにSNSを積極的に活用していただきたい。	3
						活動希望	活動依頼	問い合わせ	合計	活動提供															
						341件	52件	1,004件	1,397件	48件															
					実績値	130件	40件	49件	52件																
					達成度	100%	29%	33%	33%																
					ボランティア活動希望登録者数	目標値	355名	380名	405名	430名	455名														
						実績値	303名	292名	300名	298人															
						達成度	85%	77%	74%	69%															
					ボランティアマッチング率(活動提供件数/活動依頼件数)	目標値	98%	98%	98%	98%	98%														
						実績値	94%	98%(39件/40件)	65%(32件/49件)	92%(48件/52件)															
達成度	96%	100%	66%	93%																					
目標・指標 事業達成度(達成度平均)								65%																	

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～													
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針	自己評価	推進委員会	
														意見	評価
【2】ボランティア・市民活動の推進	(2)ボランティア活動支援	57	市社協	〔市〕 ①ボランティアセンターと共催で、市民公益活動を行っている団体・個人に対する研修の開催 ②「市民協働交流月間」等の開催 〔社協〕 ①各種ボランティア講座及び研修会の開催 ・ボランティア入門講座、ボランティア実践講座等の開催 ②登録ボランティアグループへの研修費補助 ・自主研修会の開催、県内外研修会参加費等の一部補助 ③ボランティア出前講座の実施 ・企業や各種団体等の依頼に応じたボランティアに関する講座の実施	ボランティア入門講座修了者数(累計)	目標値	40人 (40人)	40人 (80人)	40人 (120人)	40人 (160人)	40人 (200人)	【具体的な取組みと実績】 〔市〕 ①「ボランティア・NPO研修」(社協との共催)は、令和2年度をもって事業終了となった。 ②「市民協働交流月間」等の開催は、令和2年度をもって事業終了となった。 ※①②は終了となったが、会議室の貸出や設備の提供、情報提供や広報を通して支援を行っている。 〔社協〕 ①入門講座 ■令和4年6月18日(土) 場所:させぼ市民活動交流プラザ 16名参加(オンライン7名) ■令和4年11月20日(日) 場所:させぼ市民活動交流プラザ 14名参加(オンライン3名) ②実践講座 ■令和4年7月28日(木) 場所:させぼ市民活動交流プラザ テーマ:災害ボランティア 26名参加申込があったが、感染症拡大により急遽中止。 ■令和4年9月11日(日) 場所:牽牛崎遺跡(日野町)付近海岸 テーマ:環境ボランティア 講師:九十九島の会(登録グループ) 30名参加 ■令和4年10月30日(日) 場所:させぼ市民活動交流プラザ テーマ:災害ボランティア 講師:防災士 渋谷香奈氏 19名参加 ■令和5年2月25日(土) 場所:させぼ市民活動交流プラザ テーマ:収集ボランティア 講師:佐世保市社会福祉協議会 21名参加 ③出前講座 ■令和4年6月22日(水) 佐世保肢体障害者協会依頼 場所:サンクル3番館 肢体協ボランティアサポート委員会役員勉強会 テーマ:ボランティア入門 ■令和4年7月14日(木) 長崎県すこやか長寿大学依頼 場所:佐世保市労働福祉センター 第9回シニアいきいきカレッジ テーマ:ボランティア入門 ■令和4年9月24日(土) 佐世保肢体障害者協会依頼 場所:サンクル3番館 ボランティアサポート委員会発足式 テーマ:ボランティア入門 ■令和5年2月23日(木・祝) 宇久地区福祉推進協議会 場所:宇久地区コミュニティセンター 宇久地区福祉講座 テーマ:災害ボランティア ④研修費補助 支援団体数:11団体 補助総額:500,000円	3	講座参加者が定員を満たし、若い世代の参加が増えるような魅力あるテーマ設定を行っていたきたい。 また、講座受講者が新規登録につながるような講座プログラムにしていたきたい。	3
						実績値	38人	24人 (62人)	6人 (68人) ※一部中止	30人 (98人)					
						達成度	95%	60%	15%	75%					
					ボランティア実践講座開催回数	目標値	年4回	年4回	年4回	年4回	年4回				
						実績値	4回	3回 ※一部中止	2回 ※一部中止	3回 ※一部中止					
						達成度	100%	75%	50%	75%					
					ボランティア・NPO研修開催回数	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔市〕 ①「ボランティア・NPO研修」(社協との共催)は、令和2年度をもって事業終了となった。 ②「市民協働交流月間」等の開催は、令和2年度をもって事業終了となった。 ※①②は終了となったが、会議室の貸出や設備の提供、情報提供や広報を通して支援を行っている。 〔社協〕 ①各講座を土日や夏休み期間に開催し、入門講座のタイトルを「ボランティアはじめて教室」とするなど、若い世代、特に高校生・大学生の参加を意識し計画したが、参加者100名中28名、約2割の参加にとどまった。 ②年度末に講座参加者の内、未登録者24名に登録を文書で案内したところ2名が応じたことから、講座受講者への声掛けを続けていく。 ③出前講座は、3団体から4回の依頼を受けたが、企業などへの広がりが見られないため、ふくし教育と合わせて広報方法の検討が必要。 ④研修費補助については、研修方法がオンラインで行うものも増えたため、上限額に達する団体が少なかったため、予定より多い11団体を支援できた。座談会などで団体ニーズを収集し、他の支援方法も検討する。			
						実績値	1回	感染予防のため中	事業終了	事業終了					
						達成度	100%	0%	—	—					
					ボランティア出前講座開催回数	目標値	年2回	年2回	年2回	年2回	年2回				
						実績値	4回	2回	感染予防のため中止	4回					
						達成度	200%	100%	0%	200%					
					目標・指標 事業達成度(達成度平均)										

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～																			
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針	自己評価	推進委員会							
														意見	評価						
【2】ボランティア・市民活動の推進	(3)災害ボランティアネットワークの推進	58	社協	〔社協〕 ①佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会の運営 ・情報交換、情報共有のための連絡会議の開催 ②市総合防災訓練への参加 ・訓練プログラムの一つとして災害ボランティアセンター設置運営訓練を実施 ③災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施 ・連絡協議会と連携した訓練の実施	連絡会議開催回数	目標値	年3回	年3回	年3回	年3回	年3回	【具体的な取組みと実績】 〔社協〕 ①関係機関が平常時から顔の見える関係を構築することを目的として19の機関・団体による「災害ボランティアネットワーク連絡協議会」を設置し、会議を開催した。令和4年度から「ライオンズクラブ国際協会337－C地区」が新たに加入された。 ■第1回 開催日：令和4年7月1日(金) 参加団体：15団体 内 容：令和3年度佐世保市災害ボランティアネットワーク連絡協議会事業報告 新規構成団体の加入、佐世保市総合防災訓練について ■第2回 開催日：令和5年2月3日(金) 参加団体：10団体 内 容：災害ボランティアセンター設置運営訓練 ■第3回 開催日：令和5年3月24日(金) 参加団体：14団体 内 容：講話「災害ボランティアと災害ボランティアセンターについて」 佐世保市社会福祉協議会 地域福祉課 2月3日実施の災害ボランティアセンター設置運営訓練の振り返り 令和5年度事業スケジュールについて 平常時並びに災害発生時における各団体の取り組みについて ②③佐世保市総合防災訓練・災害ボランティアセンター設置運営訓練 ※佐世保市総合防災訓練時において実施 開催日：令和4年9月1日(木) 開催場所：陸上自衛隊相浦駐屯地 参加者：56名(災害ボランティアネットワーク連絡協議会委員10名、連絡協議会構成団体関係者26名、海上自衛隊OB会6名、災害ボランティア実践講座受講者1名、個人登録ボランティア7名、社協6名) 内 容：災害ボランティアセンターの開設、ボランティアの受付、マッチング、送り出し等の実践演習 ○その他 ・令和4年4月8日、災害ボランティアセンターの迅速かつ効果的な運営を図り、災害ボランティア活動を円滑に行うため、「ライオンズクラブ国際協会337－C地区」と災害ボランティアセンターの運営支援に関する協定締結した。	3	災害ボランティアセンター運営マニュアルの改定や訓練の実施など、連絡協議会開催を通して実働体制を整備していただきたい。	3						
						実績値	3回	1回 ※一部中止	3回	3回											
						達成度	100%	33%	100%	100%											
						災害ボランティアセンター設置運営訓練実施回数	目標値	年1回	年2回	年2回	年2回					年2回	【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔社協〕 ○連絡協議会の実施を通して、顔の見える関係づくりができています。また、市民向け講演会並びに災害ボランティアセンター設置運営訓練実施においても連携して取り組むことができ、訓練実施後の意見交換に繋げることができた。 →引き続き、連絡協議会やマニュアルを活用した訓練等、継続的に実施していく。 ○マニュアルについては、災害ボランティアセンター運営スタッフが業務を素早く把握・実施するために、見直しを検討する。 ○連絡協議会において新規構成団体の加入があり、平常時並びに災害発生時における各団体の取り組みについて整理を行った。 →今後も、定期的に各団体の取り組みについて支援期別に整理することで、初動体制や発災時の対応について情報共有を行っていく。				
							実績値	年1回	感染予防のため中止	感染予防のため中止	年2回										
							達成度	100%	0%	0%	100%										
					目標・指標 事業達成度(達成度平均)											100%					

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～														
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針	自己評価	推進委員会		
														意見	評価	
【2】ボランティア・市民活動の推進	(4)災害ボランティアに関する意識啓発	58	社協	〔社協〕 ①災害ボランティア研修会等の開催 ・災害ボランティアの普及啓発、意識高揚のための研修会の開催 ②地区自治協議会と連携した災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施 ・地区自治協議会で実施される防災関連事業と連携した取組みの推進 ③ホームページ及び広報紙による情報発信 ・社協ホームページや社協だよりによる災害ボランティアに関する情報発信	災害ボランティアに関する研修会等開催回数	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	【具体的な取組みと実績】 〔社協〕 ①市民やボランティア活動者に対する普及啓発を行うため、以下のとおり計画し実施した。 ○市民向け研修 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施 開催日：令和4年12月6日(火) 場 所：アルカス佐世保及びオンライン開催 講 演：「被災地にみる地域防災の大切さと、災害ボランティア活動」 講 師：雲仙市社会福祉協議会 事業企画課 地域福祉班 係長 柿川 知一 氏 参加者：65名(来場者45名、オンライン20名) ②地区自治協議会と連携した災害ボランティアセンター設置運営訓練 開催日：令和5年2月3日(金) 場 所：小佐々地区コミュニティセンター 内 容：災害ボランティアセンターの開設、ボランティアの受付、マッチング、送り出し等の実践演習 参加者：55名(災害ボランティアネットワーク連絡協議会委員9名、連絡協議会構成団体関係者4名、小佐々地区住民36名、社協6名) ③情報発信や被災者支援など ・社協だより第116号(7月発行)において、防災減災に関する情報や災害ボランティアセンターについて掲載し情報を発信した。 ・本市から他市の災害ボランティアセンターへの応援実績はなし	3	地区自治協議会との連携を図り、住民に対し災害ボランティアに対する意識啓発を行っていただきたい。	3	
						実績値	1回	感染予防のため中止	1回	1回						
						達成度	100%	0%	100%	100%						
					災害ボランティアセンター設置運営訓練実施地区数(地区自治協議会との連携)	目標値	—	1地区	2地区	2地区	1地区	【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔社協〕 ○市民向けの研修会は、新型コロナウイルス感染症予防対策として、来場とオンラインを活用し実施した。今後も引き続き、オンラインを取り入れた実施を計画する。 ○小佐々地区コミュニティセンターで実施した災害ボランティアセンター設置運営訓練において、小佐々地区自治協議会と連携を図り、多くの地域住民の参加・協力を得ることができた。→今後も、自治協単位で開催される避難訓練等において、自治協、防災危機管理局と連携し、災害ボランティアセンター設置に係る理解を深めるために、防災に関する講話や災害ボランティアセンター設置運営訓練の実施に向けて取り組んでいく。 ○近年、多くの災害が全国的に発生していることから、広報誌やホームページを活用し、関連情報の収集、発信に努める。				
						実績値	—	感染予防のため中止	感染予防のため中止	1地区						
						達成度	—	0%	0%	50%						
目標・指標 事業達成度(達成度平均)												75%				

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～															
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針	自己評価	推進委員会			
														意見	評価		
【3】共に生きる地域づくりの推進	(1)ふくし教育の実践	59	社協	〔社協〕 ①地域の関係団体や構成員を対象としたふくし教育の実践 ②地域住民を対象としたふくし教育の実践 ・地区福祉推進協議会と連携し、地域の支え合い、助け合いをテーマにした学習会の開催 ③学校や企業と連携したふくし教育の実践 ・小中学校と連携したふくし教育の実施 ・企業向けふくし教育を推進するためのリーフレット作成 ④市民を対象としたふくし教育推進フォーラムの開催 ・ふくし教育への関心を高めることを目指した「ふくし教育推進フォーラム」の開催 ⑤ふくし教育推進委員会の開催 ・ふくし教育に関する取組みへの意見や助言を得るための委員会を開催(年2回)	ふくし教育実践校数	目標値	18校	20校	22校	24校	26校	【具体的な取組みと実績】 〔社協〕 ①②に関する取組みに関して、地域のふれあいいきいきサロンにおいて、防災・減災をテーマにした出前講座やコミュニケーションについてや地域共生社会についての講話を実施。コロナ禍により地域よりふくし教育の依頼の減少や開催時期の調整が困難であり、地域を基盤としたふくし教育の推進が難しかった。 ③学校や企業と連携したふくし教育の実践 ○小中学校と連携したふくし教育 プログラムの提案や企画、講師調整等による総合的な支援 実績校:22校(小学校20校、中学校2校) 内 容:福祉講話、当事者との交流、体験学習など ○企業と連携したふくし教育 企業の職員研修におけるふくし教育を推進するため、令和4年度に作成した「企業向けふくし教育実践プログラム集」を青年会議所、地区コミュニティセンター、報道機関等に配布、社協HPに掲載し周知を図った。 ・企業の職員研修の企画・調整の支援、実施 実践企業:1社(長崎総合警備株式会社) 内 容:介護のコツを身につけよう ④ふくし教育推進フォーラムの開催 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施 開催日:令和4年12月2日(金) 場 所:アルカス佐世保大会議室及びオンライン開催 講 演:「地域共生社会の実現に向けたふくし教育～子どもの参加と協働を目指して～」 講 師:長崎国際大学 人間社会学部 准教授 梅野 潤子氏 参加者:67名(来場者49名、オンライン18名)	4	今後の取組み方針のとおり実施していただきたい	4		
						実績値	19校	18校	22校	22校							
						達成度	109%	90%	100%	90%							
					ふくし教育実践企業数	目標値	—	1社	1社	1社	1社	【実施結果の分析と今後の取組み方針】 〔社協〕 ○地域でのふくし教育の推進において、地区福祉推進協議会に働きかけを行い連携し、学習会の計画実施を進める。 ○令和4年度もまだコロナウイルス感染症の影響があり、外部から人を入れることが難しいという理由や、2学期制から3学期制になったことでカリキュラムが変わったとの理由で継続につながらなかったケースがあった。 →今後も継続的な実施につながるような工夫を行い、学校との関係性の強化やプログラム内容の充実を図り、また、実践報告を作成して周知を行うことで新規実践校の増加につなげる。 ○ふくし教育推進委員会で作成した企業向けふくし教育実践プログラム集の配布による広報・周知をすすめ、実践企業の増加につながるよう取り組みを行う。 ○市民向けのフォーラムを令和4年度も「地域支え合いセミナー」のひとつとして、ふくし教育の講演を行い、オンラインでも配信を行う取組みができたので、より幅広い世代の参加ができるよう内容の検討や開催の広報を行う。					
						実績値	—	1社	1社	1社							
						達成度	—	100%	100%	100%							
目標・指標 事業達成度(達成度平均)						95%											

基本目標②		地域における福祉活動の充実と人材育成～様々な課題を解決できる地域力の強化～														
施策	事業名	ページ	実施主体	事業内容(主な取組み)	目標・指標等		R1	R2	R3	R4	R5	令和4年度 具体的な取組み実績 実施結果の分析と今後の取組み方針	自己評価	推進委員会		
														意見	評価	
【3】共に生きる地域づくりの推進	(2)地域福祉への意識啓発	60	社協	【社協】 ①地域福祉講演会の実施 ・多くの市民に地域福祉への理解と関心を高めてもらうための講演会を開催 ②地域福祉に関する出前講座の実施 ・佐世保市出前講座のメニューに掲載、その他関係機関や団体からの依頼にも対応する。	地域福祉講演会開催回数	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回	【具体的な取組みと実績】 【社協】 ①地域福祉講演会 ※佐世保地域支え合いセミナーとして実施 開催日：令和4年12月12日(月) 場 所：アルカス佐世保及びオンライン開催 講 演：「当事者の人生から考えるヤングケアラー支援の方法」 講 師：川原 滉介 氏(一般社団法人 ヤングケアラー協会) 参加者：68名(来場者42名、オンライン26名) ②地域福祉に関する出前講座の実施 ・佐世保市を通じた出前講座依頼 なし ・その他関係機関・団体への対応 清水地区サロン「新型コロナウイルス感染症に関する講話」「地域の防災対策に関する講話」 中里皆瀬地区サロン「地域の防災対策に関する講話」 柚木地区サロン「地域の防災対策に関する講話」 江迎地区福推協「ふくしに関する講話」 【実施結果の分析と今後の取組み方針】 【社協】 ○新型コロナウイルス感染症予防のため、会場参集とオンライン配信を行い、地域住民や保健、医療、福祉関係事業所、ボランティア団体等の各分野から、参加していただいた。今後もアンケート等の意見を参考にしながら、住民が関心のある内容、地域福祉について身近に感じてもらえるような講演会を実施できるように検討する。 ○地域福祉に関する出前講座に関しては、サロンや福推協から依頼があり、実施することができた。 →今後は、オンライン配信の検討や社協が対応できる内容を一覧でまとめて出前講座のメニューとして周知するなど、引き続き講座の様子を含めて広報誌等に掲載していく。	3	市民にとって魅力あるテーマ設定やオンデマンド配信等、多様な視聴方法の導入に努めていただきたい。	3	
						実績値	1回	1回	1回	1回						
						達成度	100%	100%	100%	100%						
					目標値	—	年1回	年3回	年5回	年5回						
					実績値	—	1回	2回	5回							
					達成度	—	100%	67%	100%							
	目標・指標 事業達成度(達成度平均)												100%			
	(3)福祉活動プラザの運営	60	市	【市】 ①福祉活動プラザの管理運営 ②福祉系団体及びその活動に対する支援 ③福祉的支援が必要な人を支える人材育成 ④市民を対象とした福祉に関する意識醸成、啓発活動	会議室等利用人数	目標値	12,200人	12,400人	12,600人	12,800人	13,000人	【具体的な取組みと実績】 【市】 ・障がい者社会参加講座 開催回数 4回、参加者数 50人 ・高齢者、障がい者疑似体験教室 開催回数 23回、参加者数 902人 ・障がい者サポーター講習会 開催回数 4回、参加者数 73人 ・認知症サポーター等養成事業 開催回数 52回、参加者数 861人 ・プラザだよりの発行 発行回数 6回 ・入居団体用PRチラシの作成 【実施結果の分析と今後の取組み方針】 【市】 開設から9年が経過。新型コロナ感染症の流行もあり、会議室等の利用人数は目標値を下回っている。一方で、福祉系の教室や人材育成のための養成講座が多数開催されるなど、福祉活動の拠点としての役割を果たしている。引き続き市民を対象とした啓発活動や施設の管理運営を適切に行っていく。	3	今後の取組み方針のとおり実施していただきたい	3	
						実績値	11,743人	4,569人	5,454人	5,973人						
						達成度	96%	37%	43%	46%						
目標・指標 事業達成度(達成度平均)																46%
基本目標 総合評価												B				